

**自己課題設定の理由**

**自己の授業実践**

- × 教師主体の授業(しゃべり過ぎ)
- × 自分の考えがもたせられない
- × 話し合い活動の欠如

**めざす授業**

- × 児童が意欲的に取り組み、楽しいと感じる授業
- × 児童主体で教師があまりしゃべらない授業
- × 自分の考えをもたせ、話し合い活動を通して、さらに深まる授業

社会の授業が楽しいなあ！



**自己課題解決策**

- × 地域素材の開発・活用
- × 児童相互の意見交流

**自己課題解決のための具体的実践（4年生 社会科）**

単元名「地域の発展に尽くした人々」

**つかむ**

- 嬭恋村のキャベツ作りの現状を知り、どのようにして日本一のキャベツ村になったか考える。

どうして、嬭恋村はキャベツ作り日本一の村なのだろう？



「特産の嬭恋キャベツ日本一」  
（『嬭恋かるた』より）

**調べる**

- 戸部彪平さん、「青木彦治」さん、「塚田国一郎」さんの功績を調べてまとめる。
- 戸部彪平さんや塚田国一郎さんの功績を語った記念碑を見学し、感想をもつ。
- 戦後の開拓の歴史について調べ、当時の人々の苦労や思いを考え、話し合う。
- 開拓者として、戦後まもなく県外から入植された方の話を聞き、当時の人の苦労や風土を考える。
- 開発が進み、キャベツ作りが発展していった様子を調べる。



「血みどろの苦労が実る開墾地」  
（『嬭恋かるた』より）

**まとめる**

- 嬭恋村が日本一になった経緯を整理し、まとめる。

戦後、嬭恋村に開拓者として長野県から入植されたゲストティーチャーによる授業

**「研修の成果と課題」**

**〔成果〕**

- 副読本以外からも資料を探し活用したり、記念碑の見学をしたり、ゲストティーチャーを招いて話を聞いたりしたことは、学習の過程で効果があった。
- 課題に対して自分の考えをしっかりとらせ、意見、交流を行うことで、社会的事象についての思考力が高まった。
- 身近なキャベツを題材に扱うことで、子どもたちは課題について意欲的に調べることができた。

**〔課題〕**

- 授業のねらいにあった適切な資料や、分かりやすい資料を提示することが必要である。
- 見学や模擬体験、ゲストティーチャーに話を聞くなどといった活動はたいへん有効であるが、それを学習過程のどの段階で取り入れ、その後の授業にどう生かしていくかが課題である。
- 自分の意見はもてるが、それがグループや集団での話し合いで深まらないことが多い。話し合いの意味や楽しさを味わうことができるような指導を、継続的に行っていくことが必要である。